農研機構

平成26年度 東北地域マッチングフォーラム

飼料用米給与が畜産物生産に与えるメリット

プ　ロ　グ　ラ　ム

平成 26 年 11 月 26 日(水)　13：00 ～ 17：15

(受付開始　12：00)

ホテルメトロポリタン盛岡　本館４階　岩手の間

(岩手県盛岡市盛岡駅前通１番44号)

主催　農林水産省 農林水産技術会議事務局
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター

後援　岩　手　県
ＪＡ全農いわて
ＮＯＳＡＩ岩手
東北地域農林水産・食品ハイテク研究会
日本農業新聞

平成26年度 東北地域マッチングフォーラム

飼料用米給与が畜産物生産に与えるメリット

全体司会　　農研機構東北農業研究センター　企画管理部長　　大黒　正道

１．開　　会　　13：00

２．挨　　拶　　13：00～13：15

農林水産省農林水産技術会議事務局
農研機構東北農業研究センター所長
岩手県農業研究センター所長

３．話題提供

⑴　飼料用米利用の現状と問題点　　13：15～13：35

山形大学農学部　附属やまがたフィールド科学センター　教授　　吉田　宣夫

平成26年度の飼料用米作付面積は前年比155%と増加したものの平成24年度を下回った。飼料用米利用を加工形態から見ると二つの類型がある。一つ目は飼料工場で配合飼料に組み入れる類型、二つ目は地域で生産加工・利用してブランド化を行う類型である。今回は後者を推進するうえでマッチング主体（技術普及、研究、行政）に求められる視点を整理する。

⑵　飼料用米生産と利用についての事例紹介　　13：35～14：15

山形県農林水産部畜産振興課　技師　　高尾　槙一

山形県では全国に先駆けて飼料用米の取組みが開始されており、地域内の生産者、利用者、関係者が結びついて取組みを拡大してきた。今般の米政策等の見直しや米価下落等により、今後全国的な飼料用米の生産拡大が見込まれており、継続的な取組みとなるよう各地域の創意工夫が期待される。本講演では、山形県における飼料用米の生産・利用について取組事例を紹介する。

有限会社一関ミート　代表取締役社長　　石川　聖浩

岩手県一関地域では、平成24年３月に「一関地方飼料用米等生産利用研究会」を設立し、飼料用米の生産・利用拡大に取り組んでいる。研究会の構成員である当社は平成23年より平泉町内の同会構成員の農事組合法人に飼料用米の生産を依頼し、当社農場部（石川ファーム）の肥育豚に飼料用米を加えた自家配合飼料を給与している。そこで生産された豚肉を「黄金こめ豚」と名付け豚肉・ドイツマイスター製造のハムソーセージ・新商品開発などについて事例紹介する。

⑶　多収性専用品種を用いた飼料用米生産の取り組み　　14：15～14：45

農研機構東北農業研究センター　水田作研究領域　主任研究員　　福嶌　　陽
ファーマーズクラブ赤とんぼ　（生産者）　　浅野　厚司
北部農業技術開発センター　　石川　　洋

飼料用米を多収穫するためには、多収性専用品種を多肥栽培することが有効である。しかし、試験研究で好成績であった多収性専用品種や多肥栽培技術を普及に移そうとすると様々な問題が生じる。

多収性専用品種は、普及現場で出芽不良が問題となることがある。また、施肥管理は、気象・土壌条件及びコスト・労力を勘案して実施する必要がある。そこで、飼料用米を安定多収生産するための生産者と研究者の協力した取り組み事例を紹介する。

〈休憩・ポスター展示／試食〉 14：45〜15：15

⑷ 家畜栄養及び畜産物の品質から見た飼料用米利用 15：15〜16：30

山形県農業総合研究センター畜産試験場　主任専門研究員　庄司　則章
株式会社野川ファーム　飼料部長　森岡　勢一

近年、黒毛和種牛肉の食味への関心が高まっており、食味に関与すると考えられる「オレイン酸」を指標とする産地形成の取り組みが広がりつつある。山形県では、生産現場の要望を受けて牛肉の食味向上に関する研究を行っている。その中で、消化性を高めた飼料用米を肥育牛に給与することにより、筋肉内脂肪の不飽和脂肪酸割合の向上が確認されたことからその概要を紹介する。

岩手県農業研究センター畜産研究所　専門研究員　佐々木康仁
有限会社龍泉洞黒豚ファーム　高橋真二郎

自給飼料利用拡大と高付加価値豚肉生産を目的に、岩手県内の養豚場でバークシャー種肥育後期豚（体重70kgから110kg）に飼料用米55％配合飼料の給与を実証した。トウモロコシ30％配合飼料給与に比べ、発育及び枝肉形質は同等であるが、ロース肉脂肪含量の増加、皮下脂肪内層オレイン酸割合の増加、リノール酸割合の低下を確認した。官能評価ではトウモロコシ配合飼料給与より良好との評価で、飼料用米の給与が食味の改善に寄与していると推測される。

青森県産業技術センター畜産研究所　中小家畜・シャモロック部長　小原　孝博
常盤村養鶏農業協同組合　主任　三浦　佑哉

モミ米を混合して栄養価を調整した飼料を給与することで、卵黄色が低下し、卵黄や胸肉中の脂肪酸含量にも影響を及ぼす。青森県の常盤村養鶏農業協同組合では、飼養する約40万羽すべての鶏に飼料用米を20％以上与えながら、年間約7,000t の卵を生産しており、中でも飼料用米を68％混合した飼料を給与して生産した卵は、黄身の色が白くなる点を逆手に取り「こめたま」としてブランド化、注目を集めている。

4．総合討論 16：30〜17：15

座　　長：農研機構東北農業研究センター　畜産飼料作研究領域　上席研究員　渡邊　　彰
パネラー：講演者

報告内容を受けて、飼料用米給与の優位性について利用面や経営面から総括し、より広範な飼料用米利用に向けての技術開発の必要性、あるいは施策及び制度の充実について意見交換する。

5．閉　　会 17：15

◇試食コーナー（休憩時14：45〜15：15）
飼料用米を給与して生産した鶏卵、鶏肉、豚肉、牛肉の試食、及び飼料用米の給与・生産に関する研究成果をポスターにより展示・紹介するとともに、技術相談を行う。

※「農研機構」は「独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構」の通称です。

〔会場案内〕

ホテルメトロポリタン盛岡　本館４階　岩手の間

盛岡市盛岡駅前通１番44号（〒020－0034）

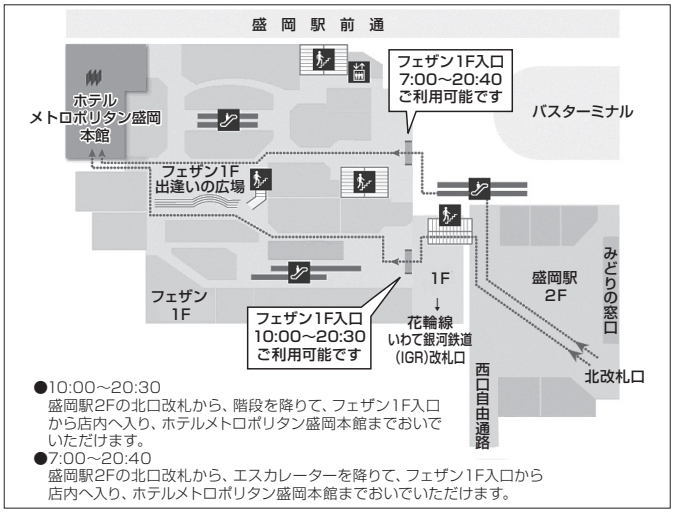
電話　019－625－1211

〔会場へのアクセス〕

○ JR 盛岡駅より、徒歩約１分
　7：00～22：40までの間、駅ビル・フェザン内専用通路を通って会場へ行くことができます（右の図を参照）。

○東北自動車道・盛岡 IC より、車で約10分

○駐車料金
　ホテルメトロポリタン盛岡 本館駐車場
　フェザン立体駐車場
　　宿泊者：１泊600円
　　その他：100円/20分
　なお、ホテルフロントにて２時間までの無料駐車券を差し上げます。



〔問い合わせ先〕

農研機構東北農業研究センター　企画管理部情報広報課

電話：019－643－3414　　FAX：019－643－3588　　e-mail：www-tohoku@naro.affrc.go.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。